

2012年度 HTLV-1ワーキンググループ活動報告

鹿児島大学での「HTLV-1 母子感染予防に関する研究（厚生労働科学研究）」に関連して、短期母乳栄養断乳困難事例へのサポート依頼を受けて、2012年度、鹿児島県助産師会の中で立ち上がったグループです。現在7名で運営しています。

1. フォーラムの企画運営

去る2013年2月6日（水）に、「HTLV-1 感染予防対策と栄養方法」というテーマでフォーラム（主催：当会・県・県医師会）を鹿児島県医師会館にて開催しました。県内の保健師や助産師、医師ら約100人が参加しました。

「当事者の思いを直接聞いて心が揺さぶられた」「さまざまな医療者と意見を出し合えて勉強になった」など多くの感想とともに、参加者によって県内の支援体制の課題を活発に出し合い、多くの課題が見えてきました

翌々日、県庁で行われた鹿児島県 HTLV-1 対策協議会には下敷領理事が参加し、

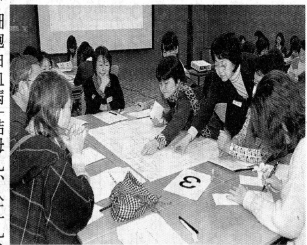
- ① 関係機関の情報共有化
- ② 相談窓口・フォローアップ体制の確立
- ③ 多職種対応のマニュアル作成や研修の継続
- ④ ミルク代などへの経済的補助

の4点を提言しました。さっそく平成25年度より④が始動されることが決定しました。



成人T細胞白血病（ATL）や神経難病HAMの原因となるウイルスHTLV-1の母子感染予防対策に関する医療関係者向けフォーラムが6日、鹿児島市であった。鹿児島県内の保健師や助産師ら約100人が、主に母乳を介して感染するウイルスの基礎知識を学んだほか、県内の支援体制の課題を出し合った。県と県医師会、県助産師会が主催。鹿児島大学の根路銘安仁特任准教授が、感染予防効果がある短期母乳や凍

HTLV-1 知識学ぶ 鹿児島市でフォーラム



母子感染の予防策を話し合う参加者
＝6日、鹿児島市の県医師会館



2. アンケート調査：鹿児島県内すべての産科医療機関および新生児訪問等に関わる助産師・保健師対象

回収率）産科医療機関：40.9%（配布66／回収27）、

市町村の訪問助産師・保健師：80.8%（配布198／回収160）

HTLV-1 陽性妊産婦のニーズや、医療者の認識など、さまざまな点が明らかになってきています（現在分析中）